

初夏の夜 (下田勝美)

様のやうなお奉行様に何ご云ふ無禮なこゝ。私共は腰がにひかへるやうでござりまする。どうぞ急いで殿様の前に御潔白を申し開きなすつて下さりませ』

馬上の重吉の顔はその瞬間にサツミ色が變つた。けれども男が涙ぐんだ目で下から見上げた時にはもう少しおのにやかな顔に返つてゐた。

『左様な噂もござるのか。いやいろへお心添へありがたう存する。手前は急ぐ程にこれにて御無禮つかまつる』  
『云つたかと思ふ。一鞭あてゝ馬を走らせた。

其の男はあつけにさられたやうな顔をして、白く一筋長い

水道にそつてだんづくに小さくなつて行く奉行の姿を見送つてゐた。

主から賜はつた月山丸の鎌刀であつた。  
奉行の死も知らぬやうに草原の向ふには、一間ほど水道が清らかな姿をして、たゞまなく流れ流れてゐた。

『こ申すやうなわけで、今でもアノ水道は湯野村のものは自由に汲むことは出来まするが、飯坂へ参れば誰れも汲むことは許されておりません。最も大きな旅館なのはそれより渡りをつけてアノ綺麗な水を特別に汲ませて貰つてなりますが

な。重吉つて奉行さんは何にしてもあらい方でござりまするわ』  
『按摩は見えない目許に微笑をうかべて長い物語を語った。

私はじつと目をさめて清らかな水の姿を、キリッ口をむすんで鋭い表情をもつてゐたであらうところの白髪の老奉行の姿を、まほろしのやうに思ひ浮べてゐた。

初夏の夜は更けて、遠くの方からまた、なまめかしい三味

音が夢のやうに漂つて來た。

## 望翠樓雑記

堀口大學

筋だ。あなたの生命は随分長い。これはあなたの頭の筋だ。

あなたは頭のいい大人になるでせう。そしてこれはあなたの幸運の筋だ。懸念を云ふならこの筋が、もつと下まで延びて居て、此邊を來てるたらあなたの運命は申分ないのです。』

少年モオランは、それを聞くと、そのまま何を云はずに、そこから出て行つた。暫くするご彼はまた其所へ歸つて來た、見るこ片手を血だらけにしてゐる。人たちは驚いた。

少年モオランは、自分の運命を開拓する爲めに、臺所へ行つて、先端の尖つた庖刀で、幸運の手筋を理想的な手を取つて云つた。

「幼い友よ、よくごらんなさい。これがあなたの生命の

＊

私はこの話を、画家のマリイ・ロオランサンから聞いた。或る伯爵夫人の應接室で。

「夜ひらく」の作者、ボオル・モオランが子供の頃の事である。或る日、彼の両親の所へ訪問に來てた一人の奥さんが——この奥さんは手相判断の人だった——少年モオランの手を取つて云つた。

「幼い友よ、よくごらんなさい。これがあなたの生命の

翠翠樓雑記（堀口大學）

長さにまで延長して來たのであつた。

※

詩人マラルメが、一生の間、中學校の英語の教師で終つた。これは誰も知つてゐる。始めは田舎で、終りには巴黎で。一時政界から失脚してゐたが、最近にまた復活して來た。佛國の財政家のジョセフ・カイヨなども、リセ・フォンタヌアで、マラルメから英語を教へられた腕白小僧の一人だつた。或る日、マラルメは、その頃やうやく脱稿した、ボオの「大鶴」の翻譯を教室で讀んで見せた。然し十三才や四才の中學生に、マラルメの名譯の深遠な意味も、幽かな文章の妙諦も分らう筈がなかつた。彼等は單にお互に顔を見合せて、眼を白黒してゐるだけだつた。やがて授業時間が終つて、教室から出るこ、彼等は全級一致して、「あの先生は狂人だよ。」と簡單に決議してしまつた。無理もない事である。その當時、これ等少年等の父兄たちも、多分ようこんでこの決議に同意だらうと思はれるのである。

※

ロシア國ベテルスブルグ市何町何番地ご宛名にて露國へ手紙を出さし、「國名及び市名不明」云ふ理由でソヴィエット郵便局が返送してよさうである。  
社會主義聯合ソヴィエット共和国ミ云ふのが此頃の露國の本名なのださうだ。廟にある例のジグム、ジグム……みたいに長い名で、到底一息には手繕かねる。ちなみに、ベテルブルグは今はレニングラードに改称した。然しそれにしても、社會主義聯合ソヴィエット共和国レニングラード市三書いて出したのは、今度は日本の郵便局で、きつこ「國名及び市名不明」を附記して返してよさうで安心しては出せぬ。

カリグラムの詩人、ギヨーム・アボリネエルが、或る日、儀式ばつた晩餐會に招かれてゐた。彼は今日晴れ、三つ二きのタキシードを着こんで、堂々と出掛る心算で仕度を始せぬ。

※

墨でネクタイを描いたらどうだ、云ひ出した。生れつき青抜なことを大好きなアボリネエルは小躍してこの名案に賛成した。その晩、彼は、シャツとカラの上に黒々と墨で描いたネクタイをかけて、にこにこして晩餐會に出かけて行つた。

ボルシヴィストの詩人、アルスキイ云ふ男は、自分の信念を次のやうに歌つてゐる、

さはやかな革命の火で  
われ等地球を取り巻かう

折角消して、また點火するのなら、手數だけが損になる。

ものだつた。こはすにはあんまり惜い場だつた。結局、場の中のネクタイは永久にそのままにして置くより他に仕方がなかつた。その時、その場に居させた友人、畫家のビカビアが、

総額は九十一萬三千九百一十九法にのほる。

※

ボオル・ヴァレリイはタイグライトアで詩を書く。

※

フランソワ・モオリアツクの小説、「火の大河」が出た當時、雑誌クラブイヨの批評家ギュス・ボッファが、「これは大河どころか、糸より細い雨でしかない」、云つて小づびをやつつけた。その後、モオリアツクは、新作「チエニトリスト」が出た時に、先に自分を酷評した批評家に、次の献詞を書いて贈つた。

「ギュス・ボッファに贈る  
筆の下でお読み下さい。」

※

若い詩人が、新刊の自分の詩集を友人に見せる。するこ友人が訊ねて云ふ。

「——君のこの詩集は賣れるかね？」  
「——賣れるよ、人が買ふかさうかは知らぬが、賣れる。」  
「——賣れるよ、人が買ふかさうかは知らぬが、賣れる。」  
は確に賣れるよ。」

※

は思はぬらしい。

十七世紀の中葉に、ロンドンで、ベストが大流行した。これが、新刊の自分の詩集を友人に見せる。するこ友人が訊ねて云ふ。

著名な小説家の娘に生れた女が、非度く人氣のある小説家の妻君になつた。夫になつた小説家は流行の人氣作家なので、代作をさせては自分の署名で発表するこが度々あつた。それを知らない妻君が云つた言葉、

「——それは不思議なよ。妻のお父さんは一年に一つしか小説はお作りにならなかつたけれど、そのくせ、明けても暮れても書いてばかりおるでになつたの、それなのに、妻の夫は、毎年五つも六つも小説を作るくせに、つひぞ筆を持つたのがないの。」

はまた格別だつたであらうと思はれるのである。惜しい儘げを逃したものだ。

當時、ベストの病源菌などは勿論知られて居なかつたので、それに對する有効な豫防法なども知られて居よう筈はない。醫者も素人も、只もう怖れるより他に方法がないのであつた。

大英博物館へ行つて見る。當時の醫者が用ひた豫防服を着た生人形が陳列してある。ボアル・モランの記述による。「その怪物云ふのは、膚色の蠍の外套を着て、伊太利喜劇に出て来る假面に見ゆるやうな、怖ろしい黒い喙の兩側に梟の眼玉を光させて、鼻の脇には香草の束をぱいに詰めてゐるのであつた。それは一見、葦のやうでもあり、また、

畫聖ジエロム・ホッシーの表現派の流を汲んだフラン画派の人々の作品の背景に、うらやうらやしてゐる節虫のやうな氣味のわるい怪物だつた。」

宛然、ほこりよけマスクを被つて、ロイド眼鏡をかけて歩きまはつてゐる大正聖代の東京市民のボルトでなくてまた何であらう？

## ※

或る時、或る人が、或る新聞で、ペロオを論じて、「彼はいやしくも一方に頭角を現はした水平線以上の人物は誰でも憎むのだ。」と書いた。するこ翌日同じ新聞に、その記事の筆者にあてて、ペロオ曰く、

「安心し給へ。僕は君は憎まないから。」

## ※

一昨年のこゝで、佛國の文學界の一部分に、文學大臣を設く可し云ふ説が行はれた。氣の早い新聞などは、早くも大臣の人事までしてゐた。雑誌「世界評論」は知名の士に向つて、「若しもあなたが文學大臣に任命されたら、最初に先づ何をなさいますか？」と質問を發した。その

時に、  
「先づ辭職いたします。」と答へたのは、ピエル・ボナルデ云ふ皮肉な男。

## ※

羅典園へかへつて來てからも、まだ中々に「無言の歌」の詩人の怒りは靜まらなかつた。云ふことだ。この新しい建築物が、巴里の美術を振ふる云ふので、文士や畫家の名を澤山に書き連ねた請願書が、その筋へ提出されたのも、實にこの當時のことだつた。

然るにその後、年は行き日は流れた。そして三十年後の今日になつた。この頃の若い文人や畫家は、この塔を何と眺めるであらうか？ 彼等は馬鹿にこの塔を愛してゐるのである。詩人ジャン・コクトオは「エッフェル塔の花嫁花婿」を書いたし、小説家のジャン・ジロオドオは「アクロボルの祈」の向ふを張つて「エッフェル塔の祈」を書いた。アンリ・ド・レニエの息子のボアル・ド・レニエは、その處女詩集の中で

このタエッフェル塔は  
月でお手玉を遊んでゐた

歌つてゐる。

エッフェル塔はまた、幾度か、ドワニエ・ルウソオの畫に現はれるのだが、こゝに彼の自像の背景に描かれてゐるの

奥田 勇  
紙手たへ與に士護辯田奥  
らか尼海舜

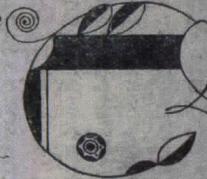
奥田 福敏様  
御許へ

三月廿二日明

獄舎なる

海

一七 舜



舜海尼の手紙をよみて

奥田様。

おゆるし下さいませ。わたくしはさうあつても控訴を致したりませぬ。さそかし強情我慢なものをおひあるそばざれるであらうと心苦しく思ひますけれども、今日も母が遙々かくれるやうにして面會にまかり、泣いて控訴をすゝめるので本当に苦しく思ひました。あなた様はどうおはし召されますか。わたくしは自分のやうな過去を持つてゐるものか、このまゝ一個のあたゝかい幸福な生活にはいるもうし。御業に泣く可憐な人達ともに人間苦のソシ底に、自分は幾分でもそらの人の友さなり慰安者となり得たらと思ふのです。さうしたことに自分の後半生を捧げることが、同時に自分自身の救はれるみちであるやうに思はれます。(中略)わたくしの苦しい半生の経験がわたくしをして、いはゆる女に選るべきな非常に恐怖せしめてなります。あなた様の御同情に對してはたゞ感謝の外なく、そゝろにおしたはしく思はれるのですけれども、わたくしはさう御返事申してよいのやら本當に窮してしまつてゐます。直ちに御返事申し上げることは、あまりに問題の大きすぎます。あなた様は如何にお思ひ召されますが、七年後のここの約束が出来ませうか。その間に何なる變化がお互ひの精神の上に起るかも知れません。わたくしはこの際何もあなたの様にお嘗ひせすに總てを自然にうちまかせんお婆アさんになつてしまひます。わたくしはこの際何もあなたの様にお嘗ひせすに總てを自然にうちまかせて、諱諱な氣持で刑に服しつゝ深い内舎の底に沈みませう。あなたの様はどうお思ひになりますか、わたしにはそれは一番いゝこかと思ひます。あなたの様ほどのやうなる御立派なお方じもお迎へあそばずこその出来るお人でありますから、わたくしのためには御不自由あそばされてはなりません。子爵様、青山様にも非常にお世話になりました。皆様の御同情まさにござに合掌いたします。いづれ御面會のなりに、失禮おゆるし賜はりませ。

望翠樓鶴記（菊口十學）

が、ここによく人に知られてゐる。

然しエツフエル塔を一番に好む畫家はドロオネエである。彼はあらゆる姿のエツフエル塔を描いてゐる。立つたのも、

ねたのも、傾いたのも、矢のやうに天に向つて昇る三三、四四も、飛行機のやうに地に向けて落ちて来る三三、四四も……。時

代三二、三三、藝術家の審美眼も變つて来る。然しそれにして

も、上野の山の西郷さんの銅像が人間の眼に藝術として映る

日が来るだらうか？

※

若者は急ぐ。

前途が長いからだ。

義眼の歴史も、今日ではわれ等は埃及までさかのほる、そこが出來る。カイロの博物館にある古代埃及人の義眼は雪花石で出来てゐて、角膜には駄鳥の玉子の殻が應用してある。羅馬人は銀で義眼をつくる。十七世紀の伊太利では、取りはづしの自由な義眼が行はれた。

※